

雌阿寒岳

○11月16日0時53分頃からの火山性微動に重なる傾斜変動

この度の活動の最初の微動に注目し、2006年2月19日と同様の傾斜変動[Aoyama and Oshima(2008)]の有無を確認した。山体周辺に展開している3つの広帯域地震観測点のいずれでも同期したシグナルが認められ、特にONTでの変動量が際だつ。青山(2008)に基づくCMG40T地震計のステップと傾斜変動量の関係($4.48\mu\text{rad}/\text{mm}$)を適用すると、傾斜変動量は東上がり $0.5\mu\text{rad}@\text{ONT}$ 、東下がり $0.13\mu\text{rad}@\text{MEA}$ 、北西上がり $0.18\mu\text{rad}@\text{FPS}$ 程度と見積もられる。傾斜計が併設されているMEAの記録を見ると、傾斜計でも $0.2\mu\text{rad}$ 程度の東下がり傾斜変動が認められ、両計測器の変動量はよく一致する。MEAでの傾斜変動量は、2006年2月の活動($0.94\mu\text{rad}$)に比べて1/5程度もしくはそれ以下である。

